

## 世田谷区基本構想審議会第2部会（第3回） 議事要旨

【日 時】 平成24年6月20日（水） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】 世田谷区役所第3庁舎3階 ブライトホール

【出席者】

■委員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、永井多恵子、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上島よしもり（第1部会）、上野章子（第3部会）、田中優子（第3部会）、宮本恭子（第3部会）、吉川仁（外部学識経験者）以上11名

■区 小田桐政策企画課長、田中政策研究担当課長、澤谷財政課長、笹部政策経営部副参事、吉田政策経営部副参事、笹本災害対策課長、花房文化・国際課長、柳原環境計画課長、竹内環境総合対策室副参事、大石工業・雇用促進課長、松村都市計画課長

【議事概要】

### 1 主な意見

#### (1) 防災に向けたコミュニティのあり方について

- ・商店街が緊急時の避難誘導や防災情報の提供等の防災の役割を果たせるよう、災害時の商店街の役割を明確化するなどの事前の準備が必要である。
- ・商店街の中には事業者と不動産所有者が分離した地域もみられる。このような地域では自助・共助の機能が弱い。
- ・桜丘では、じゃがいも堀り等を通じて多くの人と知り合う機会があり、農地がコミュニティの核になっている。それぞれの地域に核がある。
- ・マンション住民と古くからの住民との混在が進むことを踏まえ、町内会を活性化させることが重要である。現在、区内の町内会加入率は6割弱に留まる。
- ・学校も一つのコミュニティの核になる可能性があるが、私立に通学する子どもが多い世田谷区ではうまく機能しないかもしれない。
- ・高齢者の多くは病院に通院することが主な外出理由となっていることから、高齢者の防災については、かかりつけの病院とセットで考えていく必要があるだろう。
- ・ごみの出し方を地域の住民で共に考えることで、コミュニティとして機能するきっかけになるのではないか。同様にエネルギーや水を地域で共同使用をするなど、地域の人々が交流するような仕組み作りが必要だろう。
- ・ごみの戸別回収や町内会加入率の低下など、過去に戻すこと難しい。学校やマンションの管理組合等の他のコミュニティを活用するなど、新しい仕組みが必要だろう。
- ・災害時は普段から交流のある人と連絡し合う傾向がある。町内会の活性化も必要かもしれないが、加えて普段の交流を活用した地域の協議会のようなものが必要ではないか。
- ・このため、継続的にコミュニティを整備するとともに、新たな住民をコミュニティの和に加えていく仕組みが必要である。

#### (2) 防災に向けた都市計画のあり方について

- ・世田谷区内で新たに一戸建てを建てるのが難しく、マンションが増える中で緑地が減少している。建築条例等で人が住んでいる地域の緑地を守ることや、樹木墓地などの活

用によって緑地が増えるよう誘導するなど、防災につながる都市計画が必要である。

- ・世田谷区では道路が整備された地域がある一方で、狭隘な道路が多く、木造住宅が密集している地域もある。このため、地域ごとに自らの課題を議論することが大切である。
- ・阪神淡路大震災でも区画整理事業を行った地域では被害が少なかったが、このレベルまで全地域を整備することは難しく、対策があまり進められていなくても地盤がよいところでは被害が少ないため、行政が防災をどの程度担うべきなのかは、その都市の状況に応じて議論していくべきである。
- ・都市計画道路の整備や道路率等は 23 区で低位となっている。行政ではないとできないことをしっかり進めていくことも大切である。

### (3) 災害時の備えについて

- ・高齢者、特に独居老人の分布状況等、世田谷区の状況についてデータを集めて議論し、彼らにとって必要な都市機能が備えられているのか確認すべきである。
- ・3. 1 1 の際には防災無線も聞こえにくい等、区の防災施設が心許ない。
- ・災害時にしか用いない仕組みを信用しすぎてはならない。個人や有識者、町会・自治会、民生委員、商店街、民間事業者などの平時から築き上げている重層的なネットワークを活用することが大切である。
- ・災害時の独居老人対策を民生委員にしかできないが、民生委員を中心に様々な人が手分けして行うことが大切である。
- ・緊急時の世田谷区の対応方針として、防災マニュアルを持っているのか、どのような動きをするのか、区民に伝えていく必要があるだろう。
- ・防災マニュアルは必ずその通りに動かないとまらない訳ではない。地域で避難経路が決まっても、地域の人が理解している一番安全な場所に避難することが大切である。
- ・日頃から地域ぐるみで避難訓練などの防災イベントを通じて、避難することに慣れることがもちろん、知り合いが増えることで日常生活が楽しくなるのではないか。
- ・災害時の帰宅困難者への支援として、世田谷区の環状 8 号線沿いには温泉や井戸があり、震災時にはこれらを提供する家や事業者がいるだろう。

## 2 その他

- ・次回は環境・エネルギー、芸術文化について議論する。世田谷区環境審議会長で東京都市大学大学院環境情報学研究科の中原秀樹教授を招聘する。